

研修機関	医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター
研修期間	平成18年8月7日～10月6日
所属・氏名	能美市立宮竹小学校 山下 裕子

I 研修目的

- ・医療・福祉の現場を体験することにより、さまざまな人と関わり、視野を広げるとともに、人間性や社会性を身につける。
- ・お客様の立場に立ってサービスを提供しようとする企業としての姿勢や精神を学び、公教育に生かす。

II 研修内容

1 オリエンテーション【1日目】

勝木グループの基本理念・姿勢・方針、接遇の基本、社員教育、各施設の見学等

2 図書室・薬剤課【第1週】

①図書室（午前）

書籍（医学雑誌）のデータ入力、廃棄書籍の抽出整理作業

②薬剤課（午後）

ア オリエンテーション

業務内容について、コンピューターによるオーダーリングシステム、安全管理等

イ 外来・入院調剤業務

プリントアウトされた処方箋・薬袋・説明書の番号仕分け、軟膏の調合、分包機への薬剤補充等

ウ 院内調剤業務

手術検体保存用ホルマリン溶液の調合、座薬の調合等

エ 受付業務

患者様の対応、薬の受け渡し、服薬指導見学

3 北陸体力科学研究所（ダイナミック）【第2週～第4週】

①オリエンテーション

北体研の概要と各種業務について

②健康スポーツ課

ア メディカルチェック体験

身体計測、血圧、採血、心電図、検尿、体力測定など

イ 会員サービス課（ダイナミック）

・アリーナー業務

ストレッチや各種体操・講座の体験と補助、ジュニアスイミング教室の監視、会員様とのコミュニケーションなど

・清掃

玄関前の掃き掃除、運動器具の拭き掃除など

・受付業務

接遇研修、来館されたお客様の対応

・文化系クラブ業務（やわた倶楽部）

華道（花あしらい）教室、パソコン教室、コーラスサークルの補助など

ウ 各種セミナーの参加

- ・「地域、職域向け保健事業の進め方」ワークショップ補助

- ・健康知識講座補助
- エ その他
 - 薬剤課勉強会（週1回昼休みを利用）、館外清掃（草むしり）参加
- ③検診センター
 - ア DM準備
 - 住所録整理、印刷など
 - イ 各種データ保管室の整理
 - 検診結果票の整理（年度別・企業別）など
 - ウ 接遇チェックシートのデータ処理
 - エ ドックの準備
- ④その他
 - ダイナミックの夏祭りに参加（接待・売場担当）

4 図書室・薬剤課【第5週】

- ①図書室（午前）
 - 書籍（医学雑誌）のデータ入力、ビデオ・カセット等の登録作業
- ②薬剤課
 - 第1週の研修内容と同じ

5 介護支援補助【第6週～7週】

- ①オリエンテーション
 - 施設の見学、高齢者福祉や介護保険等について
- ②リハビリテーション・デイケアサービス
 - 利用者とのコミュニケーション（会話や作業のお手伝いなど）
 - リフトバス・ワゴンによる送迎 入浴（特浴）の介助
 - 体操やサークル等の補助 リハビリの補助 食事補助（配膳や評価など）
 - 敬老の会や保育園訪問の補助 など

6 用度課・看護部・在宅事業部・サービス本部【第8～9週】

- ①用度課
 - ア オリエンテーション（業務の説明など）
 - イ 必要請求物品の払い出し、在庫量のチェック、請求カードの回収
 - ウ 各階病棟の医療消耗品カートの交換と補充
 - エ 納品書の整理
- ②看護部
 - ア オリエンテーション（業務の説明、病棟の見学など）
 - イ 看護助手
 - 食事の準備 病室のシーツ交換（ベッドメイキング） トイレの介助
 - 作業（色塗りや袋たたみなど）の補助 レクレーションの準備と介助
 - 足浴介助 入浴（特浴）の介助 エアベッドの準備 備品チェックなど
 - ウ 手術室の見学と補助
 - 手術の準備（物品の定数確認・補充、手術毎のリネンづくり）
 - 滅菌作業の説明 器具のラッピング体験
- ③在宅サービス事業部
 - ア 訪問看護の補助
 - イ 在宅のみりり倶楽部みつやの施設見学など
- ④サービス本部
 - ア 総合窓口での受付業務
 - イ やわたメディカルセンターニュース等の配送作業など
 - ウ 研修のまとめ（懇談）

Ⅲ 研修成果

『あなたの健康が私たちの願いです』

この企業の基本方針の言葉が強く心に残りました。朝礼で一斉にこの言葉をいう姿ははじめ慣れない私にとって不思議にも思えましたが、日々の研修を重ねるうちに自然に感じる事ができました。研修先企業は医療中心主義ではなく、国内でも珍しい運動施設を兼ね備えています。病気のため医療機関を受診する人々。そのそばで、病気にならないためにさまざまな運動に励む人々。健康でありたいために栄養や食事について学ぶ人々。企業が企業であるためには、どちらかを選択するところを、ここでは『健康』に重きを置いています。また、企業の基本姿勢である「人を信じ、人を大切」にしますにも感心させられました。働く人たちは、みな温かく人に優しく、お客様（利用者）への接し方に学ぶものが多かったです。私自身、さまざまな職種に赴き、そこで働く人たちに仕事のことや利用者への接し方を丁寧に、ときには厳しく指導してもらえました。そのおかげで戸惑うことなくその場にうち解け込む事ができました。また、患者や利用者には、みな笑顔で温かくその場に応じた声をかけています。学校現場で児童や保護者に私はどう接してきただろうかと自分を振り返ることもできました。

また、病気等でリハビリやサービスが必要な人のためにデイサービスや通所リハビリなどの福祉施設もある。個々によって不自由差が違う人々が利用し、体のリハビリや心のよりどころにもなっています。そして自立に向けどうすべきかを考えている。それもここで働く人々に適した支援と「人を信じ、人を大切」という思いからだと感じました。その人その人に応じた支援のあり方と親身によりそうことの大切さを学ぶ事ができました。

ここでは、最高の医療と最新の機器を取り入れていました。なかでも、内視鏡手術ができるだけの設備や医師がそろっていると聞きました。手術室を見学する機会があり、殺菌以上の滅菌を施されている手術のための器具が整理されて並んでいました。その滅菌の行程や手術室の厳重な衛生管理を学びました。また、最新の手術設備や手術される人へのスタッフの心配りなども知ることができました。実際に整形の手術のようすを見学し、三人の医師と数人のスタッフが綿密な連携のもと手術を行う姿にプロとしての責任感と真剣さが感じられました。ここでも「人を信じ、人を大切」にしたいという姿勢が生きています。

「デイサービスや通所リハビリ、こういったものを単に福祉だととらえてはいけない。」いつもやさしいまなざしのある上司の方があるとき話されました。研修先企業では朝出勤するとすぐに、上司自ら率先して雑巾をもち掃除をします。企業では上司は椅子に座ってふんぞり返っているものだという私の固定観念は初日から崩れ去りました。みんな雑巾を洗い、机や棚、壁などの拭き掃除をしていました。そんなとき、立ち話で「・・・単に福祉だととらえてはいけない」の言葉。誰かに何かしてもらおう、自分の不自由を誰かに補ってもらおうことを福祉だと考えていました。人が人らしく生きることや自立のあり方などもっと私なりに考えていきたいとも思いました。

「健康が私たちの願い」とあるように、2ヶ月の研修でどの職種についても常に『健康』の二文字が頭の片隅にありました。人間みな健康でありたいと願っています。健康であるときには当たり前でついそのありがたみを忘れてもいます。その健康がいつまでも保障されているわけではありません。運動と食事（栄養）そして生活、保養の大切さを学校現場でも教えていかなければならないことを痛感しました。

Ⅳ 今後の課題

この研修では、経験のない仕事についたため、その仕事を知ることから始まりました。知ることではできても、すぐに実践できず、周りの皆様からご指導や励ましをたくさんいただきました。「教わる」者の気持ちや立場をも経験できましたので、11月の教育実習生の担当をする中で生かしていきたいと思えます。また、担任する子供たち28人とデイサービスの施設を訪れ、慰問ではなく利用者の方々と交流できる形でふれあう機会を設けたいと考えています。そして、健康への一歩に、食育について考えていきたいと思えます。

最後になりましたが、大変お忙しい中快く受け入れ、いろいろな体験を与えてくださいました勝木理事長、中田部長、桶谷課長をはじめ、医療法人社団勝木会や勝木グループの皆様には心から感謝します。本当にありがとうございました。